

現代の図書館 第48巻 (2010) 総目次

・No.1 (3月刊行)

特集：読書の遠近法 (パースペクティブ)

この30年で日本の読書環境は激変した——永江 朗	3
雑誌・書籍のデジタル化とその未来—デジタル・インパクトからデジタル・イノベーションへ——丸山信人	9
「書物のシステム」が変わる時代に——仲俣暁生	19
読者一人ひとりのニーズから読書のサポートのあり方を考える——成松一郎	25
2010年「国民読書年」に障害者・高齢者の「読書バリエーション」を考える——宇野和博	32
「読書の意義」の過去・現在・未来—《社会の中の読書》という視点から——飯田篤司	39
読書という体験——影浦 映	46
図書館における指定管理者制度導入についてのアンケート—集計結果——日本図書館協会図書館政策企画委員会	52
編集後記	68

・No.2 (6月刊行)

特集：調査研究法を学ぶ

調査の統計処理——歳森 敦	71
フォーカス・グループ・インタビューは利用要求を解明する——長谷川豊祐	78
図書館サービス評価の実践—慶應義塾大学におけるLibQUAL+® (ライブカル) の実施と結果——浅尾千夏子, 藤本優子	89
図書館の遠隔利用者に関する調査手法の比較—国立国会図書館ウェブサイト事例として——安形 輝	96
図書館史研究をどう進めるか——奥泉和久	103
図書館実務者による調査研究——阿部信一	109
投稿	
ビジネス支援図書館の計画 (試論) —政令指定都市クラスに対する一つのケース・スタディを通して——栗原嘉一郎	115
図書館の未来—村上春樹の〈図書館〉を通して——与那覇恵子	123
わが国における図書分類表の使用状況—日本図書館協会「図書の分類に関する調査」結果より——大曲俊雄	129
編集後記	144

・No.3 (9月刊行)

投稿論文セクション2

公立図書館というスペースの思想的総合性—集会室や展示空間へのアクセス—歴史的概観——川崎良孝	147
図書館に関わる著作権法条項の成立の過程—第30条私的使用のための複製と第31条図書館等における複製——藤田節子	163
県立図書館は機関リポジトリの技術をどのように活用できるか—インターネット上の地域情報リポジトリの提案——山縣睦子	179
「Web版ISBN総合目録」の汎用性に関する研究—総合目録の機能の観点から——間部豊	184
都道府県立図書館における児童サービスの現状と課題—国際子ども図書館児童サービス連絡会の成果を中心に——石川真理子, 橋詰秋子	190
心の悩みをもつ人への図書館サービス—受療行動と情報行動の分析結果からみえてきたもの——中谷佳男	197
前IFLA会長クラウディア・ルクス氏に聞く——伊藤 白	203
編集後記	208

・No.4 (12月刊行)

特集：分類新時代

テキストの自動分類をめぐる現況——石田栄美	211
『日本十進分類法』新訂10版をめぐる——藤倉恵一	217
主題典拠データの機能要件 (FRSAD) の概要——和中幹雄	224
中学生の知識世界の構築・体系化のプロセス—分類理解に関する聞き取り調査をもとにして——中島正明	231
音楽作品の主題検索—主題, ジャンル, 形式をめぐる——鳥海恵司	238
Digital Cultural Heritageにおける分類と新しい情報知識体系の可能性——研谷紀夫	245
韓国十進分類法 (KDC: Korean Decimal Classification)——原田美佳	253
知識の樹—図書分類と生物分類は共通のルーツをもつ——三中信宏	262
『日本の図書館』調査とデータの活用について——日本図書館協会調査事業委員会	270
編集後記	280